

地震が起きたらどうするか？

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きて「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。



地震発生

- 落ち着いて、自分の身を守る
- 火の始末はすばやく
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する

緊急地震速報

強い揺れ（震度5弱以上）が始まる数秒から数十秒前に、テレビやラジオ、市の防災行政無線や携帯電話などで「もうすぐ揺れること」を知らせてくれます。ただし、震源に近い地域では、強い揺れに間に合わないことがあります。

1～2分

山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難

- 火元を確認、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
- 非常持出品を手近に用意する



3分

- 隣近所の安全を確認
特に一人暮らし高齢者など要配慮者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。
- 余震に注意

5分

- ラジオなどで情報を確認
- 電話はなるべく使わない
- 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する

5～10分

- 子どもを迎えに
自宅を離れるときには、行き先を書いたメモを家族で決めた場所に隠す（空き巣対策）
- さらに出火防止を！
ガスの元栓、電気のブレーカーを切る（通電火災対策）

10分～数時間

- 消火・救出活動
隣近所で協力して消火や救出を。あわせて消防署等へ通報する。

～3日くらい

- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家には入らないこと
- 引き続き余震に警戒する

避難生活では

- 自主防災組織等を中心に行動を
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を

もし、原子力災害が起きたら

湖南省に最も近い大飯原子力発電所は、直線距離で約65kmの位置にあります。滋賀県による放射性物質拡散予測シミュレーション（福島第一原子力発電所における事故を想定）結果によると、湖南省における甲状腺被ばく等価線量は50mSv～100mSvと予測され、市民の皆さんには自宅等への屋内退避を考慮する必要があると判断されています。緊急時には、市は皆さんに情報提供や避難行動の指示を行います。また、原子力災害から身を守るために、災害時の基本的な行動パターンを覚えておきましょう。

原子力災害から身を守る基本の行動（時間の流れ）

原子力発電所の状況

事故発生

地域住民が健康被害を受ける可能性が高い状態（全面緊急事態）

- 原子炉を冷却する全ての機能の喪失
- 炉心損傷発生を示す放射線量検知など

放射性物質大量漏えい

市内の空間放射線量が防護基準値を超過

市から情報提供・行動の指示

事故発生情報

屋内退避の準備情報

屋内退避の指示

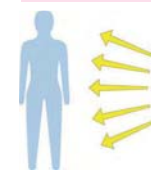
飲食物の摂取制限指示

市外への避難指示

放射能、放射線、放射性物質とは

放射線を出す能力を「放射能」といい、この能力をもった物質のことを「放射性物質」といいます。懐中電灯に例えてみると、光が放射線、懐中電灯が放射性物質、光を出す能力が放射能にあたります。

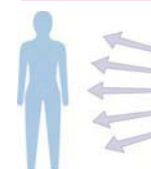
懐中電灯



明るさを表す単位
(ルクス:Lx)

光を出す能力
↓
光の強さを表す単位
(カンデラ:cd)

放射性物質



放射線を出す能力
↓
放射能の強さを表す単位
(ベクレル:Bq)

放射線によってどれだけ影響があるのかを表す単位
(シーベルト:Sv)

出典：資源エネルギー庁「原子力2010」

放射能・放射線の単位

放射能	ベクレル (Bq)	放射能の強さを表す
放射線量	シーベルト (Sv)	放射線が人体に与える影響の程度を表す

1Sv = 1,000mSv (ミリシーベルト)
= 100万 μSv (マイクロシーベルト)

防災コラム 外部被ばく、内部被ばくから身を守る

外部被ばくから身を守るには…

- 距離による防護
できるだけ遠くに離れる
- 遮蔽による防護
コンクリートなどの建物の中に入り、放射線をさえぎる
- 時間による防護
放射線を受ける時間を短くする

内部被ばくから身を守るには…

- 吸引防止
マスクやハンカチで口をふさぐ
- 摂取防止
汚染された水や食べ物をとらない

